



Club Palette Vol.31

カラーの最前線を歩く vol.5

ROOMBLOOM

—暮らしを変えるこれからのペイント—

溢れるモノの中からお気に入りの家具や器を選ぶように、自分のお気に入りの色を選び、自分の過ごす空間を彩る。色から暮らしを考える、暮らしを丁寧につくる。そのような思いから、新しいペイントを提案しているROOMBLOOM(日本ペイントホールディングス株式会社)を訪ね、開発から携わってきた中澤淑子さんと柳谷典子さんにお話を伺いました。

—メーカーが開発した日本初の内装用ペイントブランド ROOMBLOOMが生まれたきっかけを教えてください。

ご存知のとおり塗料業界は男性的な世界です。それは塗料の用途が主として自動車、家電製品、橋梁などであることに起因するのかもしれませんが、私たちはさらなる塗料のニーズと可能性を模索する中で、今までありそうでなかったインテリアに特化した新ブランドROOMBLOOMを立ち上げたのです。

コンセプトは「色から暮らしを考えるペイント」。ペイントが心の余裕や遊びゴコロを喚起し、暮らしを丁寧につくっていくきっかけとなったらと、社内の女性陣4名による特別なプロジェクトをスタートさせたのは2013年4月のことでした。

—プロジェクトがスタートして半年後には、早くもマスコミから大きな注目を集めました。ROOMBLOOMで展開なさっている144色のコンセプトカラーはどのように決まったのでしょうか？

色を選ぶにあたっては、主人公を「私」とし、「何気ない日常に垣間見える色々な思い」「時を過ごした場所の思い出や彼の地への憧れ」などのさまざ



リポーター

桜井 輝子 Sakurai Teruko

カラーコーディネーター認定講師(2級・3級)
東京カラース株式会社 代表取締役
色彩知識を活かして企業のカラーコンサルティングや色彩教材の開発、書籍の執筆を行う。インテリア、エクステリア業界の世界標準システムであるNCSをスウェーデン本部で学び、認定講師の資格を取得。2010年より環境色彩コンペティション「グッド・ペインティング・カラー」の審査委員を務めている。



棚に並ぶカラーイメージ

まな気持ちを大切に考え、その気持ちを144色の色に変えていきました。

そして、まずは色に親しみを感じていただけるように、その色を表すのに従来のような色に関する記号や数値を使うことをやめました。代わりに「私」「誰と、どこで、どんな風に」暮らすのかをイメージしやすいネーミングを考えたのです。

ROOMBLOOMのパンフレットには、この144色を掲載していますが、色の並べ方に大きな特徴があります。横軸は「場所(PLACE)」と「人(PEOPLE)」、縦軸は「感情(EMOTION)」と「時間(TIME)」というマトリックスになっていて、すべての色をその色の持つストーリーにふさわしい場所に配置しています。

たとえば、人気色のひとつである淡いブルー「パリの朝」は、色のマトリックス上で、街や国の雰囲気と時間の移ろいを表現した「場所(PLACE)」と「時間(TIME)」のエリアにあります。ストーリーは、「憧れのパリ。早起きしてホテルの周りをぐるりと歩いてみる。落ち着いた色合いの町並みと澄み渡る青い空が絶妙な空気を醸す。そして、その中に溶けていく」という具合です。

ROOMBLOOMの公式サイト上で、すべての色とそのストーリーをご覧ください。

一部屋の壁にペイントするシーンは外国映画でよく見ますが、 いざ自分の部屋の壁に塗ろうと思った時には「私にできるかな？」 という気持ちが出てくるのではないかと思います…。

みなさん最初はそう思われるかもしれませんが、けれども、今は初めての方でも簡単に、キレイに仕上げることのできる道具もそろっていますし、塗料そのものの性能も以前と比べ格段に向上しています。ビニール壁紙の上から塗ることもできます。

それに、ペイントを塗ったときの厚さ、塗膜はわずか100ミクロン(1ミリの10分の1)程ですから、万一失敗しても上から塗り直せばいいのです。

また、私たちは「8対2の法則」と呼んでいますが、お部屋全体の8割は白っぽい色に、残る2割は思い切って濃い色や、きれいな色を塗っていただくこともご提案しています。日本の生活空間の壁面は白っぽいところが多いのですが、その空間に慣れている、ペイントに初めて挑戦される方でも「8対2の法則」は取り組みやすいと思います。最近では親子で楽しめる方も増えていますよ。

—私たちがインテリアのリフォームを考える時、今後はペイントという 選択肢が身近なものになりそうですね。

御社ではHAPPY WALL PROJECTをはじめとした、ペイントを生活に取り入れるためのさまざまな取り組みをなさっていると聞きました。

HAPPY WALL PROJECTは「ペイントで暮らしをもっと豊かにしたい」という想いをかたちにしたもののひとつです。きれいにしたいけれど、なかなかそのきっかけがない児童施設や福祉施設、学校などの公共施設の壁をみんながペイントするような取り組みを行っています。



パンフレットを広げ、ROOMBLOOMの特徴を説明して下さる柳谷さん(左)、中澤さん(右)



ROOMBLOOM 使用例

小学校で卒業していく6年生が、あとに残る下級生のために壁を塗ったり、また、東日本大震災の被災地で、コミュニティスペースの天井を、そこを使う子どもたちと一緒に塗ったり、さまざまなケースがあります。私たちはこのプロジェクトで、ペイントを使った体験を通した「コトづくり」の場を提供していきたいと願っています。

ほかにも「自分の家をペイントしてみたいけれど、ひとりでは大変そう」という方のために、家族や友人とパーティー感覚で、ペイントしている時間そのものを楽しむ「ペイントパーティー」というコンセプトを提唱し、そのためのキットも販売しています。

もちろん、やっぱりプロに塗ってもらいたいという方には、サービスも承っております。

— 最後にメルマガの読者に向けてメッセージをお願いします。

このメルマガを読んでくださる方は色に興味がある方々ばかりだと思います。ROOMBLOOMは「色から暮らしを考える」新しいコンセプトブランドです。私たち（開発者）も自宅の壁の一部に色を施していますが、たとえば洗面所の一面を鮮やかで深みのあるピンクに塗ってみたら、鏡に映る自分の肌がキレイに見えるようになり、それだけでテンションが上がるような体験をしています。暮らしに色を取り入れるひとつの方法としてROOMBLOOMを知っていただければと思います。



洗面所の塗装例

ROOMBLOOMホームページでは、色のストーリー、ペイントを使った素敵な内装例や、さまざまな取り組みが紹介されています。プロジェクトへの参加の呼びかけもありますので、ぜひご覧ください。

<http://room-bloom.com/>

認定講師が教える！
ワンポイント
カラー検定!!

溶剤に水を使用した塗料である。水は大気汚染を引き起こすことがなく、環境にやさしい溶剤として、石油系溶剤に置き換わってきている。

— 2級テキストP153掲載「II-3-2 水性型塗料」—

今回ご紹介したROOMBLOOMのペイントは、塗料中に揮発性有機化合物(VOC)をほとんど含まない環境配慮型合成樹脂エマルジョンペイントで、水性型塗料の一種です。

また近年では、高日射反射機能(近赤外領域の光を高いレベルで反射することで、被塗物の温度上昇を抑制する機能)や耐火機能など、さまざまな機能を付与したペイントも開発されています。